

とうなる
"東洋のマチュピチュ"東平はこんなまちでした



東平小学校

住友私立として設立。のちに、新居浜市立になった

東平社宅

東平には、9つの社宅があった

斜面の上の方には、住友の職員住宅があった

住友の要人や客をもてなす場。当時としては珍しいコーヒーやビスケットなども用意

東平接待館

1軒ごとにかまど付き、炊事場は共同で利用

日用品や雑貨、学用品、化粧品などを販売、のちに生協になる

配給所

雪の多い土地なので、夏休みは短く、冬休みは長かった

住友別子病院 東平分院

銅山から運ばれてきた銅鉱石を保管した場所

貯鉱庫

第三通洞

採掘された銅鉱石が第三通洞から運ばれてくる

選鉱場

手作業で鉱石を選別

インクライン

資材や生活用品の運搬に使われたケーブルカー

東平娛樂場

廻り舞台や花道があり演劇や歌舞伎を上演、映画の上映も行われた

索道基地

索道とはロープウェイのこと。選り出された鉱石をバケットに乗せ、ふもとの端出場(はでば)などに運んだ。食料品や日用品の運搬にも利用

給料日には、新居浜市内の商店街から流行の物も持ち込み販売

とうなる
最盛期の東平
 (大正～昭和初め)
 東平は明治後半に開発され、昭和43年の東平坑休止まで存続した。

山の中に大きなまちがあったのね

に坂社宅や呉木社宅など

斜面を利用して労働者の住まいがあった。共同炊事場、共同風呂だった